人類に奉仕するロータリー
RI会長　会長ジョン・ジャーム

Rotary District 2640 Japan
海南東ロータリークラブ
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST
2016-2017年
会長　上野山 雅也　　幹事　山畑 弥生　　ＳＡＡ：大江 久夫

第 1906 回例会

平成 29 年 2 月 20 日（月）

12:30～ 海南商工会議所 4F

１．開会点鐘
２．ロータリーソング　　「それでこそロータリー」
３．ゲスト紹介
ゲスト卓話　臨床心理士 島田 ゆか 様
４．出席報告
会員総数 43 名　　出席者数 23 名
出席率　53.49%　　前回修正出席率　65.12%

５．会長スピーチ　　会長　上野山 雅也 君

本日は、お客様として和歌山ダルクの、島田ゆか様をお招きしております。島田様は、臨床心理士であられまして、後程、卓話をして頂く予定になっております。よろしくお願いいたしたいと思います。

臨床心理士とは---私も少し勉強しました。と言ってもウィキペディアから程度の知識ですが---臨床心理士とは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する民間資格およびその有資格者のことである。

活動領域に応じて学校臨床心理士、病院臨床心理士、産業臨床心理士などとも呼ばれる。臨床心理士は、臨床心理学を学問基礎とし、相談依頼者（クライエント）が抱える種々の精神疾患や心身症、精神心理的問題、不適応行動などの援助、改善、予防、研究、あるいは人々の精神的健康の回復、保持、増進、教育への寄与を職務内容とする心理職専門家であるとあります。後程、皆様にとっても興味深いお話が聞けることだと期待しております。

さて、次は、各席に資料があると思いますが、2 月の定例理事会の件にまいります。理事会は、2 月 9 日に開催いたしまして、例のごとく会長挨拶から始まり各報告事項、および協議事項を決議いたしました。プログラムの件では、3 月 27 日に元当クラブのメンバーで、パストガバナーの平尾さんの卓話を予定いたしております。ご期待頂きたいと存じます。

それから皆様方には封書でお知らせしたとおり新入会員の赤松昭二さんが承認されたと言うことで、めでたく入会の運びとなりました。追って、ご紹介方々歓迎会等をいたしたいと思っております。

それと、27 日に台湾彰化東南ロータリークラブが例会に出席いたします。5 名が出席される予定です。食事は通常の例会食といたします。今回の訪問で土、日と歓迎の食事会および観光など予定していますので、お手すきの方は、是非ご協力お願いいたします。

そして、恒例の家族会の件ですが 4 月 23 日（日）に琵琶湖方面へ行く予定になっておりまして中村親睦委員長の活躍に期待いたしたいと思います。

６．幹事報告　　幹事　山畑 弥生 君

○例会臨時変更のお知らせ
有田ＲＣ　2 月 23 日（木）→　2 月 23 日（木）
18:00～　橘家
ロータリー創立記念日
夜間例会＆ロータリーカレッジ開催
和歌山西ＲＣ　3 月 15 日（水）→　3 月 16 日（木）
18:00～　割烹「古川」
和歌山東南ＲＣ　3 月 22 日（水）→　3 月 24 日（金）
18:30～　ルミエール華月殿
和歌山アゼリアＲＣとの合同例会

○休会のお知らせ
和歌山東南ＲＣ　3 月 8 日（水）
和歌山西ＲＣ　3 月 22 日（水）

○クラブ臨時休業のお知らせ
和歌山西ＲＣ　2 月 21 日（火）～28 日（火）

７．委員会報告

○親睦活動委員会　　委員長 中村 俊之 君
4 月 23 日（日）に恒例の家族例会を計画しました。琵琶湖方面へ行く予定です。多数のご参加をお願いします。なお、予約の関係で参加申込みは、3 月 3 日までお願いします。

2月は 平和と紛争予防／紛争解決月間です

四つのテスト　言行はこれにてらしてから
①真実かどうか　③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か　④みんなのためになるかどうか

事務所　〒642-0002
海南市日方 1294（海南商工会議所 4F）
TEL:073-483-0801　FAX:073-483-2266
http://www.kainaneast-rc.jp　E-mail：info@kainaneast-rc.jp

８．ゲスト卓話　　臨床心理士 島田 ゆか 様

はじめまして。一般社団法人和歌山ダルクの代表の島田ゆかと申します。ダルクとは、薬物依存症からの回復のための支援施設です。和歌山ダルクは、女性と子どもへの支援をメインにした施設になっています。電話相談や、カウンセリングなどでは男性の相談も受け付けていますが、入寮や通所となると、女性限定でのケアをしています。

えっと、ここでお話させていただくのは初めてなので、私の自己紹介からさせていただきたいと思います。私は、出身は大分県宇佐市というところです。大分県は、和歌山県ととても気候が似ていて、和歌山に引っ越してきたときは、山の色が一緒だなぁと思った記憶があります。また、温泉が多い。というのも、似ているなあと思いました。みかん山があり、冬のこたつの横には頂き物のみかんの箱。ただ、大分には桃はあまりないので、和歌山に来て桃が美味しいな、と思いました。

この夏に、和歌山ダルクでは、ロイズホームといって、母子、依存症などの生きづらさを抱えている母親とその子どもが一緒に入寮できる、母子寮を開設しました。薬物依存症からの回復施設で、母子で入寮できるのは、全国で、ロイズホームのみになっています。初めての試みということで、右も左もわからないまま、活動していますが、楽しくわいわいしながら活動しています。

私は、2006 年から臨床心理士として、活動しています。臨床心理士というのは、いわゆる心の専門家です。カウンセリングや、心理教育などを通して、精神的なしんどさに寄り添い、どうやったら問題解決の方向にむかうのか、一緒に考えていく仕事です。また、行き詰っているときは、多くの人が心理的な視野狭窄というのですが、物事を考えたり判断したりするときの視野が狭くなってしまいます、そんなときに、話を聞きながら、こういう見方もできるんじゃないか、とか、こういうやり方でやってみたらどうでしょう、とか、違う視点からの介入をすることで、困りごとを抱えている人のサポートをしたりしています。

スクールカウンセラーとして、2006 年から活動してきました。小学校、中学校、高校と勤務したことがあります。高校は、田辺高校の方にいかせていただいていました。田辺高校は、進学校で、みんなとても勉強熱心でした。勉強も部活も遊びも、頑張って青春を謳歌している生徒が多い中、勉強がしんどくなってきたり、家族関係がしんどくなってきたり、または、神経症的な症状がひどくなったり、などでカウンセリングにくる子がいました。不思議なもので、カウンセリングに来る子の８割が特進クラスの生徒だった、というのが印象的でした。頑張ってやってきて、田辺高校という、その地域で一番の進学校に入学し、周りも優秀な子ばかり。その中で、息切れをする子もでてくるのでしょう。そんな子たちの話を聞きながら、心の声に耳を傾けながら、カウンセリングを行っていました。

中学校は、最初は有田地方の中学校に勤務していました。大学院を修了したばかりでしたので、右も左もわからないまま、なんとかかんとか一生懸命仕事をしていました。学校の先生たちの方が、学校現場や教育のプロですので、そこから、いろいろ教えていただく。という姿勢で仕事をしていました。毎日が緊張の連続で、家に帰ったらもうぐったりで何もできない。という日々でした。職員室にいることが、すごく緊張して、世間話をするのが苦手で、どきどきしていました。あれから 11 年たって、スクールカウンセラーとして継続して仕事をしていますが、今では、空き時間には職員室で新聞を広げて読むことができるくらい、ふてぶてしくなることができました。あれこれ先生たちと雑談するのも楽しく、年齢を重ねると生きるのが楽になるんだなあと思いました。若いころに気にしていたいろいろが気にならなくなってくるなあと思います。これは、これから先、年々そうなっていくのでしょうか。

和歌山と大阪でスクールカウンセラーをしていましたが、和歌山はとても仕事がしやすいです。みなさん優しくて、あれこれ気にかけてくれたり、気さくに話しかけてくれたり、すごく居心地がいいです。

中学校では、主に不登校や発達障害の子のカウンセリングと、その保護者の方のカウンセリング、そして、担任をはじめとする教職員の方へのコンサルテーション、アドバイスというのでしょうか、一緒に話し合って、どんな対応が一番いいのか検討する、ということをしていました。昼休みは自由に生徒が来室できるようにしていたので、わりとやんちゃな男子がきたり、おとなしい女子数人、または、派手で目立つタイプの子がきたり、といろいろでした。それぞれに個性があって面白かったです。また、集団で相談室にくるときと、一人でくるときとでは、みんな、話す内容、ふるまい方、など全然違います。子供たちも、精一杯学校という社会の中で社会性を身に着けながら生きているのだなあと感じます。

学校によって違いますが、保護者の方のカウンセリング件数の方が多い傾向にありました。不登校の子どものお母さんが一番多かったです。多くのお母さんたちは、困っている現状を話した後、「自分の育て方が悪かった」と自分を責めます。ですので、ゆっくり話を聴いて、こういう声掛けをしたらどうかな？とか、いま、子どもさんはこういう状態にあると思われるので、こんな対応をしたらどうでしょう。など、提案をしながらも、お母さんに向けて、「あなたが悪いんじゃないよ」というメッセージを伝えます。スクールカウンセラーに相談しようと学校に来てくれるお母さんは、だいたい「いいお母さん」が多いです。それだけ子供に一生懸命向き合って、子供がよりよい方向にいくにはどうしたらいいか、と悩まれているお母さんがほとんどです。不登校だけではなく、子どもに精神

的な症状がでる現象のほとんどは、その子どもだけが問題だったり、または、お母さんの育て方が問題だったり、とそんな単純な問題ではありません。私は、「家族病理」の一つの現れかただ、ととらえています。世代間、例えば、お父さん、お母さん、そのまたお父さん、お母さんとの関係や、もちろん、夫婦関係であったり、いろんな要因が絡み合って不登校などの一つの状態として、その困ったことが、その子どもを通して現れてきます。その家族病理にどこまで踏み込むのか、これはむつかしいところですが、学校という現場では、私は「原因探しより解決法さがし」をモットーに取り組んでいました。

なぜ、子供が不登校になったのかを考えるより、今からどうすれば、物事がいい方向にいくのか、を一緒に考えていきます。不登校の原因が見えてくるのって、実は10年後だったり20年後だったりすることもあります。本人が大人になって「ああ、昔はこういうことでしんどかったのかな」と気づく日がくるというか。

今、私たちにできることは原因を探すのではなく、解決方法をみつけること、と思っています。試行錯誤しながら、こうしたらうまくいった、こうしてみたら、少しは表情がよくなった、こうしてみたら、部屋からでてくるようになった、こうしてみたら、少しずつ子供が自分の話をするようになった、など。学校にいくようになること、に焦点をあてすぎず、日々のちょっとした変化を見つけていきます。

スクールカウンセラーとして、働いているときは、あえて言うことはありませんでしたが、私は、高校に行っていません。3か月で高校を中退して、なんだかんだありましたが、18 歳のころ大検、現在では高校卒業認定試験というのですが、それを受けて、大学受験をして、進学しました。なにかと生きづらさというのは抱えていましたが、人生なんとかなっています。高校にいかなかったら、人生終わり、とかそういうものでもないと思っています。学校では、そんなこと言えないですけど。

大検を受けるきっかけとなったのは、新聞の下の方に、大検予備校の広告がのっていたのを姉が見つけて、「こういうのがあるよ」と自宅に置いておいてくれたのがきっかけでした。それから、受けてみようかな、と思って、その時の動機は、将来のことをすごく考えて、というわけでもなく、ただ、学校にいかずに過ごしていても、家の中で風当たりも強いし、することないし、という感じで「受ける」と言いました。

そこからの、両親の決断は早かったです。大検予備校に申し込んでくれて、通わせてくれました。自宅は大分県宇佐市、予備校は福岡県の小倉というところです。電車で一時間ちょっと。ちょうど、和歌山から天王寺に行くような感じでしょうか。定期代も結構かかったと思います。

大検の勉強自体はそんなにむつかしいものでもありません。高校を卒業したのと同等の資格をとれるよ、という試験なので、できれば文科省かな？わからないですけど、国の管轄機関としても、合格してとってほしい、というような試験なので、勉強すれば、わりと合格できるような試験でした。ただ、どの試験でもそうですが、勉強しなきゃ受からないです。

予備校に通ったのは、勉強をそこでがっつりするため、というよりは、勉強をするモチベーションを維持しつづけるため、という感じだったかもしれません。結果としては、ですが。そこには、同じ大検を受ける友達がいて、しんどさを理解してくれる先生たちがいて、すごく通いやすかったです。

行ったり行かなかったりした日もありましたが、何とか8月に大検を受けることができて、その後、大学受験のための勉強をはじめました。やっぱり、高校なんていかなくていいわー。と思って、3か月で中退したんですが、その後アルバイトをしてみて、世間の風当たりの強さや、なんといいますか、自分の中での劣等感のようなものも刺激されていたのですが、一つ継続して勉強をして、資格がとれた、ということが、すごく私の中の自信になりました。何かを成し遂げることの、楽しさといいますか、満たされた感じといいますか。16 歳のころの私にそれがはっきりと言語化されて理解できていたかというと、少し違うと思うんですが、37 才になった今思うと、そうだったのかな、という感じです。

そして、現在ですが、スクールカウンセラーとして活動するなかで、11 月まできみの町の小学校でお仕事をさせていただいていました。小学校ですので、はっきりと枠のあるカウンセリング、というよりは、教室に入って、一日子供たちと一緒に過ごす方が多かったです。その中で、発達障害をはじめとした、しんどさを抱える子ども、例えば、じっと座って授業を受けることができない子や、午後からしか登校できない子などと、一緒に話をしたり遊んだりしていました。「ババア、あっちいけ」と言われても、なんだか可愛くて「あっちにいかないもーんだ」といいながら過ごす日もありました。俳句しりとり、という遊びをその子が考えて二人で座り込んでやっていた日もあります。５・７・５で好きなことをいい、それをしりとりとして二人でするのですが、その俳句の中にも、子供の心情がちらほらでてくることがあって、愛しさがこみあげてきました。「たのしいな　一緒に遊ぶと　うきうきだ」とか。可愛くないですか？ババアあっちいけ、と言いながら、こんな素敵な俳句を作ってくれるのが嬉しくて。そして、そこに「大好きだ　遊ぶとたのしい　ボール投げ」とか返したりしていました。いろんなことをしながら過ごして、荒れて暴れているときは、こちらも大きな声を出して羽交い絞めにして、行動を制御するときもありましたが、直接子供とかかわれるというのは、とてもいい経験になりました。一つ一つが私の宝物です。ダルクの仕事が忙しくなり、途中で退職して、カウンセラー交代になる、というとき、最後の勤務の日にその子が手紙をくれました。「僕は、先生のことをずっと見ていました。僕はせんせいと会えなくなるのがさみしいです」という内容でした。

Rotary International Convention
HOST ORGANIZATION COMMITTEE

そういえば、ババアあっちいけ、と怒られるのは、私が子どもの熱などで、勤務日を変更してもらって、行くはずだった日に行けなかったあとだったり、「ババア、待っていたのに」とか、他の学年の教室に入っていて、その子のところに行くのが午後からになった時だったり、「今頃来てもおそいんじゃよ」と怒っていたりしたなあ、と思い出されました。カウンセラーはもともと１年契約で、ずっと関わることはできません。また、子どもが卒業したら、継続ケースも終結になります。なので、出会いの時から別れの時を想定して会うことになります。そこが、なんともいえないさみしい部分でもありますが、また、そこから次のカウンセラーさんにバトンタッチして、そこでも関係を作っていくことが、その子の人格形成に役に立つのかなあ、などとも思います。

また、放課後は職員室で教職員の方たちときになる児童について、ケース会議です。カウンセラーの目から見た、児童の様子、どんな声掛けをしたらどんな反応をしたか、その子にとって今必要なものはなにか、などを話し合いました。また、担任の先生たちもものすごく疲れているので、そこの部分の話を聴いたりすることもありました。

最後に、現在の和歌山ダルクの様子について、お話させていただきます。海南東ロータリークラブさんには、以前からとてもお世話になっていて、すごく助けられています。おかげさまでつぶれることなく、なんとか活動を継続できているのが現状です。

ロイズホームという、女性の依存症者のための入寮施設がオープンしました。ここは、全国でもはじめての試みなんですが、母子で入寮できる、いわゆる母子寮のような形態になっています。今、母子で入寮している利用者の方が一組います。依存症から回復したいと思いながらも、自分の力だけでは、薬をやめ続けることができない、と入寮を決心しました。子どもは未就学児が２人います。お母さんは、子供をとてもかわいがるひとですが、やはり依存症の症状のせいで、今までは適切な養育ができずにいました。また、薬の問題を抱えている、ということで、外部の支援機関にもつながることができず、孤立して子育てをしていました。そこに、ダルクという施設としてかかわることで、薬の問題を正直に話すことができるようになったり、一緒に役所や子ども支援センターにいくなど、必要な機関につないでいきます。こうして、社会とつながりをもち、また、落ち着いた環境のなかで素面の状態で自分と向き合うことで、本来持っていたその人の力が発揮できてくる、というのでしょうか、子供をかわいいと思う気持ち、大切に思う気持ちが、ちゃんと行動となってあらわれてきます。すると、子どもも、やはり笑顔もふえますし、ちゃんとワガママがいえるようになってきます。そこから、幼稚園や保育園に通います。年度途中の入園になるので、なかなか空きがなく、ハウスからだいぶん離れたところにある保育園にしか入園できませんでしたが、電動自転車を献品してくださる方がいて、おかげさまで無事、保育園にお母さんが自分で送迎しながら、子育てをすることができるようになりそうです。初の試みで試行錯誤の毎日ですが、手ごたえを感じています。子供の虐待予防に内側から関われること、今まで誰も関われなかったケースに生活の中から関われることに、とてもやりがいを感じています。依存症なので、何が起きるかわからないですが、おちついた環境と正直に話をできる場所があれば、人は本来持っている力を発揮できるのだなあと感じます。依存症からの回復は一歩一歩、今日一日のつみかさねで、亀のような歩みですが、一方で驚くような素敵な変化をみせてくれる人もいます。小さな施設の小さな取り組みですが、今後とも、どうぞ見守っていてください。よろしくお願いいたします。今日はこんな素敵な機会にお声をかけてくださりありがとうございました。

９．閉会点鐘

次回例会
第 1907 回　平成 29 年 2 月 27 日(月)
12:30～ 海南商工会議所 4F
台湾 彰化東南 RC「歓迎例会」

ニコニコ・BOX

山名 正一 君	一昨日の土曜日、東京に行くのに海南駅から乗車の予定の特急くろしおに乗り遅れ、新幹線の乗り換え手続き等に大変でした。腕時計の時間が５分遅れていました。
阪口 洋一 君	島田ゆかさん、本日は卓話よろしくお願いします。
桑添　剛 君	島田ゆかさん、卓話ありがとうございます。
上野山 雅也 君	島田ゆか様　ようこそお越し下さいました。本日のスピーチよろしくお願い致します。
山畑 弥生 君	〃
大江 久夫 君	〃

Rotary
CELEBRATING 100 THE ROTARY FOUNDATION
ATLANTA 2017
米国・ジョージア州アトランタ
2017年6月10～14日
www.riconvention.org/ja

Rotary ロータリージャパン
http://www.rotary.or.jp